

故古賀英三郎先生主要著作目録

一 著書

人類の知的遺産39・モンテスキュー、講談社、一九八二年一二月

国家・階級論の史的考察、新日本出版社、一九九一年四月

二 共著

現代の社会科学（高島善哉編、水田洋、他）、春秋社、一九七四年九月

社会思想事典（田中浩・田村秀夫編）、中央大学出版局、一九八二年九月

ネオ・マルクス主義―研究と批判（新日本出版社編集部編）、新日本出版社、一九八九年七月

ネオ・マルクス主義―研究と批判 2（新日本出版社編集部編）、新日本出版社、一九九一年三月

三 翻訳と解説

ロバート・H・ローウィ著『国家の起源』、法政大学出版局、一九七三年十一月

同解説：「国家起源論をめぐって」
デイドロ著『アルジャン（銀・貨幣）』『農業』、小場瀬・

平岡監修『デイドロ著作集』第3巻、法政大学出版局、一九八九年三月

同解説：「デイドロの政治・経済思想」
スタロパンスキー著『モンテスキュー』、法政大学出版局、近刊

四 論文

「社会思想史の人々」オーギュスト・コント、秩序と進歩の統一、日本評論新社『法学セミナー』第30号、一九五八年九月、八〇―八三頁

- 「エミール・デュルケーム—経済社会から道徳社会への近代社会観の転倒」、一橋大学『一橋論叢』第43巻第4号、一九六〇年四月、一〇九—一三〇頁
- 「コント社会学の基本構造」、一橋大学『社会学研究』1、一九五六年一〇月、一四七—一三〇二頁
- 「モンテスキューの思想と科学についての若干の考察」、一橋大学『社会学研究』2、一九五九年三月、二二五—三二二頁
- 「コントにおける実証的社会科学の形成—初期の諸論稿を中心として」、一橋大学『一橋論叢』第39巻第5号、一九五八年五月、三〇—五六頁
- 「カール・マルクス—経済の論理と政治の論理—序章」、一橋大学『一橋論叢』第47巻第4号、一九六二年四月、五八—八五頁（『国家・階級論の史的考察』、新日本出版社、一九九一年四月 所収）
- 「フランス資本主義とオートバンク」、一橋大学『社会学研究』6、一九六四年九月、七三—二五九頁
- 「分業の問題」、一橋大学『一橋論叢』第56巻第6号、一九六六年一二月、八九—一〇七頁
- 「Problèmes théoriques de l'organisation des classes et du travail productif」 HITOTSUBASHI JOURNAL OF SOCIAL STUDIES, vol. 4 No. 1, January 1968, pp. 26-42
- 「一八世紀初頭のフランス社会の危機とその対策—一七
- 一五—一八の諸提案とモンテスキューをめぐる」上・中・完、一橋大学『一橋論叢』第63巻第4号、一九七〇年四月、二〇—一三七頁、同誌、同巻第6号、同年六月、四一—六三頁、一橋大学『社会学研究』11、一九七一年三月、二八—三四二頁
- 「フランスの都市と市民生活」、横浜市立大学『世界の都市と市民生活』一九七一年三月、一五—二五頁
- 「社会科学としての社会学への道」、『経済』、一九七一年五月、二九六—三〇〇頁
- 「社会学の成立と展開」「政治学・法学の抽象化」「転換期の社会学」、高島善哉編『現代の社会科学』、一九七四年九月、春秋社、一六七—一七八頁、一七八—一八二頁、一九〇—二〇九頁
- 「モンテスキューの土地経営(1)」、一橋大学『社会学研究』14、一九七五年三月、一五五—二〇四頁
- 「階級編成と生産的労働」、一橋大学『一橋論叢』第73巻第5号、一九七五年五月、一三—二九頁（『国家・階級論の史的考察』、新日本出版社、一九九一年四月 所収）
- 「Exploitation terrienne de Montesquieu (1)」 HITOTSUBASHI JOURNAL OF SOCIAL STUDIES, Vol. 18 No. 1, May 1976, pp. 18-34
- 「ウェーバーとフランス①」『知の考古学』8・9号、社会思想社、一九七六年五・七月、八〇—九六頁

「マルクス・レーニンゲルスの革命論―多数者革命論を中心
に」、『講座・史的唯物論と現代』第5巻、一九七八年、青
木書店（『国家・階級論の史的考察』、新日本出版社、一九
九一年四月 所収）

「フランス社会主義」、田村秀夫・田中浩編『社会思想事
典』、中央大学出版局、一九八二年九月、一三六―一六八頁

「一橋社会学の伝統」、一橋大学『一橋論叢』第89巻第4
号、一九八三年四月、二〇二―二〇四頁

「マルクス主義における国家と階級闘争」、『季刊・科学
と思想』第49号、一九八三年七月、三五―四九頁（新日本
出版社編集部編『ネオ・マルクス主義―研究と批判』、一九
八九年七月 所収）（『国家・階級論の史的考察』、新日本出
版社、一九九一年四月 再収）

「フランスにおけるブーランツァス批判―ブーランツァ
スの実践的立場」、『季刊・科学と思想』第69号、一九八八
年七月、三四―六五頁、新日本出版社（新日本出版社編集
部編『ネオ・マルクス主義―研究と批判』、一九八九年七月
所収）（『国家・階級論の史的考察』、新日本出版社、一九九
一年四月 再収）

「アールリ『経済・市民社会・国家』への批判的論評」、『季
刊・科学と思想』第74号、一九八九年一〇月、二一―三二頁
（新日本出版社編集部編『ネオ・マルクス主義―研究と批
判2』、一九九一年三月 所収）（『国家・階級論の史的考

察』、新日本出版社、一九九一年四月 再収）

五 書評・その他

〈書評〉「アンリイ・ルフェーヴル著『ディドロ』」、一橋
大学『一橋論叢』第32巻第3号、一九五四年九月、六五―
七四頁

〈文献解題〉「Montesquieu, Charles Louis de Secondat,
baron de ; De l'Esprit des Loix, Geneva, 1748」一橋大学
『一橋論叢』第43巻第6号、一九六〇年六月、五二―六七頁
〈書評〉「田辺寿利著『フランス社会学成立史』」、『社会学
評論』第17巻第1号、一九六六年一〇月、一〇九―一一二
頁

「三つの社会学理論とマックス・ウェーバー」、『世界の大
思想II―7 ウェーバー』月報8、一九六八年、河出書房、
一―四頁

「フランス革命時代の一つの逸話―大工のピエールとジ
ヤンのこと」、一橋大学『小平学報』、一九七〇年三月、二
頁

〈書評〉「小林良正『アジア的生産様式研究』塩沢君夫『ア
ジア的生産様式論』」、一橋大学『経済研究』、第22巻第2
号、一九七一年四月、一八七―一九〇頁

〈講演要旨〉「フランスの都市と大学問題」、『経済と貿易』
104、一九七一年一二月、五五―六〇頁

〈書評〉「主意主義的行為理論の提唱―『分析的現実主義』を自己の認識論的立場に…T・パインソンズ著『社会的行為の構造』 M・ウェーバー論(I)」、『日本読書新聞』、第793号、一九七四年二月九日

〈社会思想の歩み・その古典をたずねて〉第1部第11回「第三身分の権利擁護 モンテスキュー『法の本質』」、『学生新聞』、一九七五年二月一九日

〈社会思想の歩み・その古典をたずねて〉第2部第6回「社会主義思想の萌芽 サン・シモン『産業者の教理問答』」、『学生新聞』、一九七五年五月一四日

〈社会思想の歩み・その古典をたずねて〉第2部第10回「本質論の問題を回避 コント『実証哲学講義』」、『学生新聞』、一九七五年六月一八日

〈社会思想の歩み・その古典をたずねて〉第2部第11回「小市民的な社会批判 プルードン『所有とは何か』」、『学生新聞』、一九七五年六月二五日

〈書評〉「富沢賢治『唯物史観と労働運動』」、一橋大学『経済研究』、第26巻第3号、一九七五年七月、二八三―二八五頁

〈書評〉「高島善哉著『マルクスとウェーバー』(紀伊国屋書店)」、一橋大学生協書籍委員会『ほんとはびあ』、第3号、一九七五年一〇月二〇日

〈書評〉「吉田静一『サン・シモン復興』』『異端の経済学者

―シスモンディー』、『社会経済史学』第42巻第4号、一九七七年二月、四五一―四五四頁

〈書評〉「庄司興吉著『現代化と現代社会の理論』」、『赤旗』評論特集版第9号、一九七七年五月二三日、二四頁

〈書評〉「研究』歴史の現実と固定的な見方 大塚久雄『社会科学における人間』を読む』上・下、『学生新聞』第742号、一九七八年三月八日、同、第743号、一九七八年三月一五日

〈書評〉「熊野聡『共同体と国家の歴史理論』」、『歴史学研究』第42号、一九七八年一月、七一―七四頁

「革命の否定と『転向』の合理化…清水幾太郎『オーギュスト・コント』を読む』、『学生新聞』第775号、一九七八年一月一五日

〈講演〉「国家の基礎」(一九七八年七月一六日都立大)、全国社研連編『社会科学をいかに学ぶか』、一九八九年(『国家・階級論の史的考察』、新日本出版社、一九九一年四月 所収)

「文学者モンテスキュー」、『基礎フランス語』第5号、一九七九年九月、二七四頁

「モンテスキュー研究の新動向」、『中公・バックス』世界の名著34・モンテスキュー』付録61、一九八〇年五月、中央公論社

「モンテスキューの『法の本質』の草稿について」、一橋

- 大学社会科学古典資料センター「Study Series」第5号、一九八三年三月
- 「研究室から―社会構造と状況連関」、『赤旗』、一九八三年七月三〇日
- 「『ベルシャヤ人の手紙』第二版のミステリー」、『一橋大学社会科学古典資料センター年報』第6号、一九八六年三月三―七頁
- 「すすめたい書物」、一橋大学『小平学報』第93号、一九八六年四月
- 「『イギリス啓蒙思想研究文献コレクション』について」
- 「『フランス革命史料コレクション』について」
- 「『西洋社会経済研究文献集成』について」、一橋大学附属図書館報『鐘』第19号、一九八八年四月
- 〈講演〉「古典の魅力」、一橋大学社会科学古典資料センター「第8回西洋社会科学古典資料講習会テキスト」、一九八八年
- 〈書評〉「志位和夫『ブーランツァス国家論の矛盾と破綻―ネオ・マルクス主義』の批判的研究」(『前衛』八月号)を読んで、『赤旗』、一九八九年七月三一日
- 「『現在の革命におけるモンテスキューの権威について』と『モンテスキューの弟子』」、『一橋大学社会科学古典資料センター年報』第10号、一九九〇年三月、二二―三三頁
- (渡辺雅男、伊藤知美)